

アフリカン・スタディーズ 2011



12年 富士組 後藤綺花

南アフリカ国旗の意味



赤は過去の対立の中で流された血

青は空と二つの海

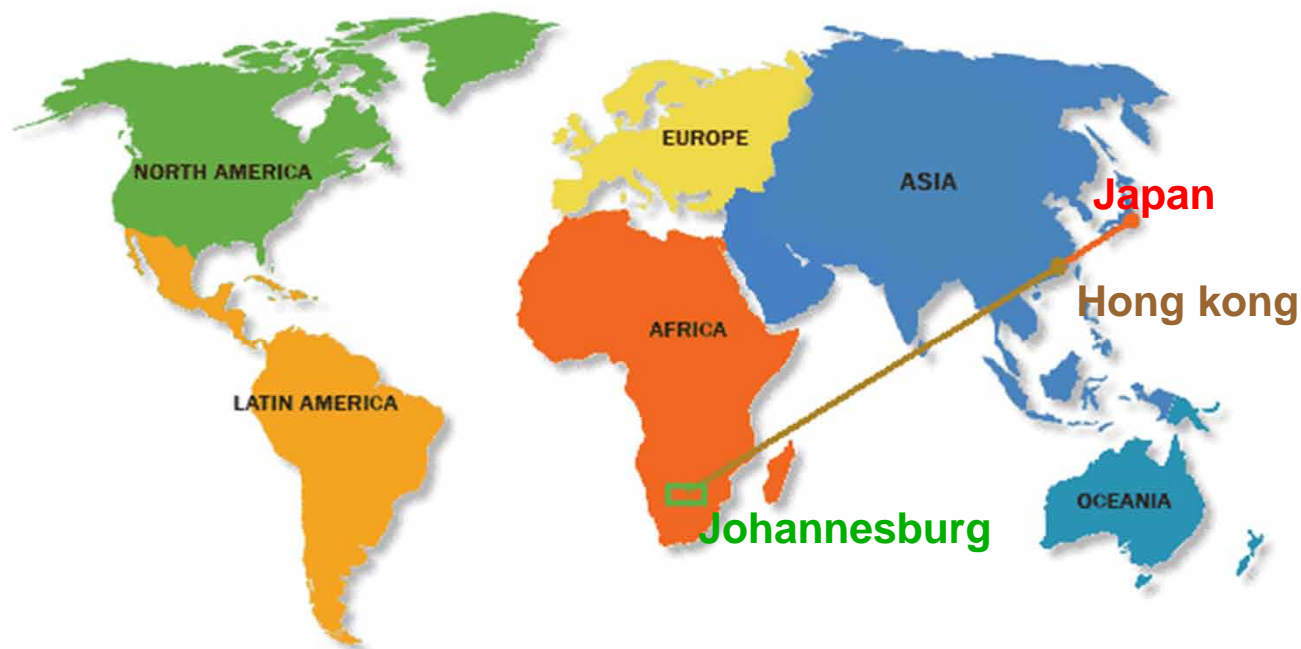
緑は南アフリカの広大な農場や自然

黄は南アフリカで産出される金に代表される天然資源

黒は南アフリカの黒人の国民

白は南アフリカの白人の国民

1日目 移動(成田→香港→ヨハネスブルグ)



日本から香港まではフライト時間が約4時間30分

香港からヨハネスブルグ(南アフリカ)までは約13時間

更に南アフリカは南半球にあるため日本と季節は正反対である

2日目 サンシティ&ピーランズバーグ国立公園



場所:ヨハネスブルグ

人工的に作られたリゾート地

人工のビーチがある

建物の中にはカジノなどゲームセンターが存在する

地元の若者などがよく遊びに来る場所

アフリカとは思えない行楽地

ピーランズバーグ国立公園



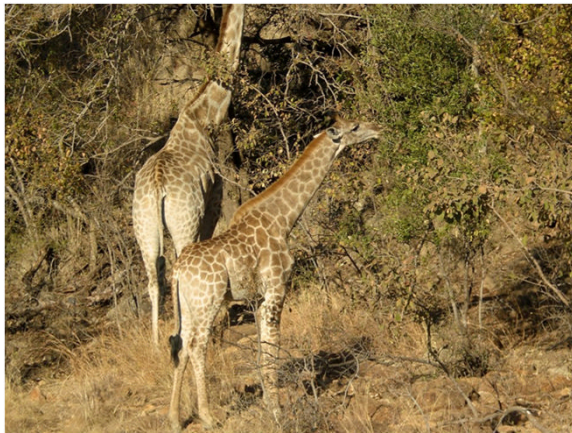
場所:ヨハネスブルグ郊外

サファリ専用の車に乗って移動

サイやゾウ、キリンなどの動物
が生息している

日本では味わえないアフリカなら
ではの大自然が体験出来る

ピーランズバーグ国立公園



3日目 国境越え & Maru-a-Pula School



場所:ヨハネスブルグ→**ボツワナ**

ヨハネスブルグから陸路でボツワナへ

国境を越えた

明確な国境線は見当たらなかった(普通は山や川などを境目とする(国境))

ボツワナ国旗

盾の表面の上部の歯車は工業を意味する

青い三つの線は波

PULA(ツワナ語表記)とは国のモットーであり、雨を意味している(水の貴重さなどを表す)

赤い牛の頭は牧畜の重要性を表している

右側のシマウマは国内で重要な穀物であるソルガムの穂を、左側のシマウマは以前の貿易品であった象牙を抱えてい



Maru-a-Pula School 寮



場所:ボツワナ(ハボロネ)

様々な人種の生徒達が通っている

進学校である

学園内の生徒達は皆、フレンドリーで挨拶をすると必ず笑顔で返してくれる

4日目 歴史博物館 & Bahurushe Cultural Village



場所: ボツワナ(ハボロネ)

南アフリカの歴史博物館

カーマ三世、バトエンー世、セ
チェレー世の銅像がある

この3人はボツワナ独立の父と
も呼ばれている

Bahurushe Cultural Village



場所:ボツワナ(ハボロネ)

アフリカの昔の生活が体験出来る(踊りなど儀式)

アフリカの伝統料理が食べられる

彼らが着ている服は全て民族衣装である

Bahurushe Cultural Villageの様子



5日目 エイズ・環境教育・コンピューター技術



場所:ボツワナ

JICA(ボツワナ事務所と青年海外協力隊)

エイズに関して学ぶ

環境教育ではリサイクルやオーガニックガーデンを見学

現地の人の資格を取る施設に行った

JICAボツワナ事務所と青年海外協力隊活動 場見学



世界中で増え続けるエイズ(日本でも深刻化)

このボツワナではエイズ患者が多く世界でも第二位に入る

※しかし、国民は危機感を持たない



エイズ患者の多い地の第一位はアフリカの小国、スワジランド

JICAのボツワナ支部に派遣された協力隊がエイズの知識を現地の人々に呼び掛けている

青年海外協力隊の活動現場(環境教育)



※ボツワナの社会はリサイクルの意識が薄い

そのためリサイクルを呼び掛けている

オーガニックガーデン(左下の写真): 現地の人々が野菜などを育てられるよう技術を伝授している



現地の人々がお菓子の余り紙などを使ったアクセサリなども売っている

シニア海外ボランティアの活動現場(コンピューター技術)



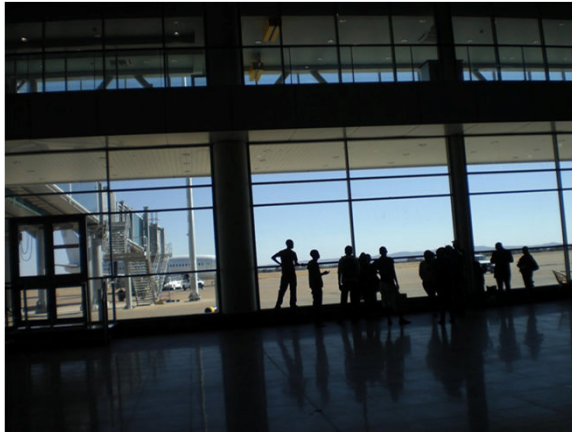
現地の人々に職の資格を与える事が目的

どんな人でも入れる



希望する職業に対する資格を得るための育成施設が多数集まっている
(例:美容師、エンジニアなど)

6日目 移動(ケープタウンへの)



場所: ボツワナ→ヨハネスブルグ→
ケープタウン

6日目はボツワナからバスでヨハネスブルグ空港まで行き、ケープタウンに移動した



7日目 District6博物館・タウンシップの幼稚園訪問



場所：ケープタウン

かつて、南アフリカはアパルトヘイト人種隔離政策により多くの人々が強制移動させられた



その中でもカラード(混血)と呼ばれる人たちに視点を当てた資料館に行った

幼稚園(Langaタウンシップ内)



急遽、観光しやすいと有名な
Langaタウンシップ内の幼稚園に
立ち寄った

子どもたちは自国の国歌や歓迎
の歌で私達を歓迎してくれた



8日目 St Cyprians School & タウンシップ 訪問



場所：ケープタウン

St Cyprians School(女子校)を訪
問した



校内見学、南アフリカにおける人種
問題の歴史の講義、東日本大震災
に対するプレゼンテーション

東日本大震災に関するプレゼンテーション(St Cyprians School内)



学園生はSt Cyprians School生の礼拝の時間を使い3月11日に起きた**東日本大震災**に対するプレゼンテーションを行った



突然の震災により日本は恐怖に陥れられたこと、福島第一原子力発電所についてもプレゼンした

更に震災の日に学園内で起こっていた事なども説明した

タウンシップ(合法的スラム)訪問



タウンシップとは、南アフリカへ仕事を求めて隣国(タンザニアなど)から都市部へ流入してきた人々などに対し、政府が住宅建設が追いつかず、**一時的に合法的に住む場所のみを提供されたもの**。



このタウンシップの名前はコーサ語でImizamo Yethus(意味はOur combined effort)

現在は仕事を求めてきた移民の人た

タウンシップの様子



このような状況でもタウンシップに住む
人々の目は**幸せそうであった**

人々は**お金に価値観を見出していな
かった**

9日目 テーブルマウンテン & 喜望峰



場所: ケープタウン

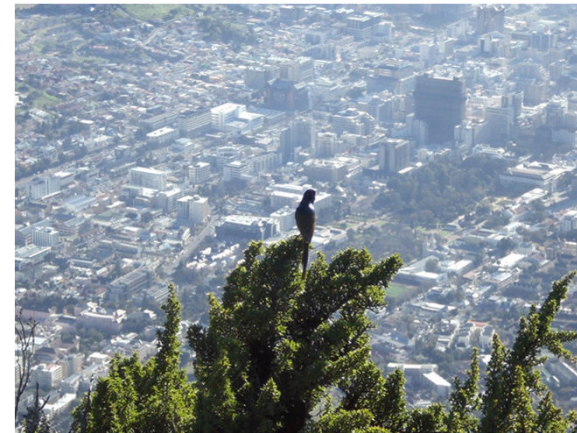
ケープタウンの**シンボル**とも呼ばれる。



高さ1086メートルの、山頂が真っ平らの台形の岩山(そのためテーブルマウンテンと呼ばれる)

頂上からはケープタウンの町が見渡せる

テーブルマウンテンの様子



喜望峰



喜望峰はケープタウンから50km南へ延びたケープ半島の突端にある。

喜望峰がアフリカ大陸の最南西端と呼ばれることもある。



1488年にポルトガル人のバルトロメウ・ディアスが到達し、Cabo Tormentoso(「嵐の岬」)と名付けたが、ポルトガル王のジョアン二世が後にCape of Good Hope(希望の岬)と命名した。

喜望峰の様子



アフリカ料理(Goldレストラン)



このレストランは非常に面白いレストラン

食事の前に太鼓のレッスンを受ける(アフリカ伝統の太鼓)



出てくる物は全てアフリカの郷土料理であり、食事中にアフリカ伝統の踊りが行われたりする

10日 & 11日 帰国

場所：ケープタウン→ヨハネスブルグ→香港→**成田**

まとめ：このアフリカンスタディーズに参加してみて感じたことはメディアで見る南アフリカと実際の南アフリカは全くちがっていたという事だ。JICAでボランティアに来た方々も現地の方が幸せそうで自分達が何をしたらいいかという疑問に見舞われたそうだ。先進国である日本より南アフリカの人々の方が幸せそうに見えたことは私にとって非常に衝撃的であった。この経験を踏まえ私達は知らない人たちに、このことを伝えていかなければいけないなと意識していこうと思う。

御閲覧ありがとうございました。